

校長ニューズレター(第10号・1月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



学芸会で総合表現

いよいよ学芸会の開催です。

今回は、宜野湾市の指定研究で取り組んだ「総合表現」の発表を1年、4年、5年でおこないます。

総合表現は、朗読、歌唱、体の動きなどをおして、子どもたちの自発的な表現をつくっていくものです。

授業研究用語辞典(横須賀薫編)によると、総合表現をつぎのように説明しています。

特定の登場人物や主人公はなく

ストーリー性よりも詩的な情緒性が重んじられ

劇的な表現よりも象徴的な表現に適している。このように、学芸会でこれまで見慣れてきた“劇”とはかなり違った印象です。

ではこの総合表現で、子どもたちの何を育てるのでしょうか。(学芸会も、教育活動の一環です。レクリエーションや余興ではありません。)

育てたいことは、

イ. 創造性を最大限に引き出す(教師の型はめではなく・・・)

ロ. 感性

ハ. 自信・集中力・協力し合うことなど

創造性を高めていくために、子どもたちは特別な衣装を身につけません。子どもたちの身体美が表せるような服装が理想です。きらびやかな衣装をつけなくても、観衆を感動させるような創造性を身につけさせていきたいと考えています。

たとえば、「おむすびころりん(1年生)」では、子どもたちはおむすびの格好もおじいさんの衣装もつけません。「こどもの四季(4年生)」にはカミナリサマが登場しますが、その衣装を子どもは身につけません。加えて、壁画もつくりません。子どもたちは、自分の身体だけで表現に勝負していきます。このように

して、子どもたちの創造性を高めていく、これが目的のひとつです。

マイクもつかいません。子どもたちは、休憩時間には大声を出しますが、舞台や授業中の声はか細い子が多いのが現状です。人前で響き渡るような声で発表できるような子どもを育てていきます。それには総合表現が打って付です。子どもたちは、マイクがあると大きな声を出さなくなります。機械がいくらでも声を拡大してくれるからです。マイクは子どもが育つチャンスを奪う可能性があります。そこで、総合表現ではマイクを使わず、自分の身体を楽器にして響き渡るような歌声や朗読ができるような子どもを育てていきます。そのことによって、子どもたちは自信をもちだしていくのです。

総合表現は、総合的な学習の時間をつかって、5月から取り組んできました。子どもたちは継続して練習し、“長編”を完全に憶えました。ほぼ15分の演技に最後まで集中して取り組むことができるか・・・これも大きなチャレンジです。子どもたちは、総合表現に取り組むことで集中力を身につけていきます。

友人の演技を支えることも重要です。自分の出番が終わったら、うわの空ではいけません。それは観衆にもすぐ分るし、子どもたち同士でもわかるのです。全体の演技が良くなるには、舞台にいる子どもたちが最後まで協力し合わないといけません。そのことも、子どもたちは気づき始めています。

総合表現の取り組みは、先生たちも子どもたちもみんな初めてでした。試行錯誤でここまでできました。

温かい目でみまもり、応援していただけると子どもが育ちます。子どもたちは、勇気をふるって表現しています。心の中で「がんばれ!がんばれ!」の声援をぜひお願いしたいものです。

平成21年度 学芸会あいさつ

みなさまおはようございます。校長の横山です。学芸会にお越しいただきありがとうございます。

今年度の学芸会の特色を申し上げます。校長のニューズレター1月号でご説明したとおり、宜野湾市の研究指定校の取り組みの一環で、3つの学年にわたって「総合表現」に取り組んできました。

総合表現は、朗読、歌、体の動きをつかって総合的に表現を行うものです。子どもたちの想像力や集中力を育てたり、自信を育てていく手段と考え取り組んでいます。総合表現は、子どもを育てるためマイクを使いません。特別な衣装も身につけません。効果音なども使わずにピアノ伴奏と子どもたちの身体だけで表現していきます。

1年生は「おむすびころりん」、4年生は「こどもの四季」、5年生は「かたくりの花」です。“四季”の定かでない沖縄で、また“かたくりの花”のない沖縄で、これらを教材として選んでいる理由は、
教材として優れていること

かたくりの花は、世界に誇る文学である万葉集にも歌われている花であり、この教材のなかでも万葉集に出てくる歌が入っています。つぎの歌です。

もののふの 八十娘子らが 涙み乱ふ 寺井の上の 堅香子の花 (大伴家持)

子どもたちに、万葉の時代に思いを馳せ、想像力を育て味わってほしいという願いから選定しています。3年生がアルプスの名花である「エーデルワイス」の演奏に取り組みましたが、エーデルワイスもかたくりの花も沖縄には存在しません。しかしながら、子どもたちを万葉の時代や海外に目を向けさせ、創造性を大きく育てていく教材になるのではないかと考えております。

さて、2年生は劇、3年生は合奏、6年生は劇です。これらについては、恒例のものであり説明も必要ないかと存じます。

残りの演目は、5年生と6年生のものです。最後まで、ごゆっくりご鑑賞ください。

学芸会見学でのお願い

1年・2年・3年・4年・5年はマイクをつかいません！

- (1) 見学にあっては、“おしゃべり”はお控えください
子どもたちの声が聞こえなくなります。
- (2) 演技中の退席はお控えください
会場がざわつき、子どもたちの演技に支障をきたします。
- (3) 全学年の子どもたちの演技をご覧ください、激励をおねがいします

学芸会は子どもたちにとって、最高の晴れの舞台です。子どもたちは晴れの舞台で、可能性を開花します。子どもたちが、いままでにない新しい自分を発見し生まれ変わるチャンスがあります。

私たち大人は、子どもたちに最高の舞台を提供しましょう。

すべての子どもたちの演技に心からエールを送っていただけたらと存じます。